令和元年度　　学校評価・自己評価表

神石高原町立神石高原中学校

経営目標 教育目標	【学校経営目標】 　めまぐるしい社会の変化に対応し，自らの進路を切り拓く力を育てるとともに，地域に感謝し，社会に貢献しようとする意欲を持った生徒を育てる教育活動の推進 【学校教育目標】 　主体的に学び　挑戦し　社会に貢献できる生徒の育成	めざす 生徒像	・「夢・実現」に向けて主体的に学ぶ生徒 ・自ら考え,判断し,行動できる生徒 ・失敗を恐れずチャレンジし，自らの進路を切り拓く生徒 ・ふるさとを大切にし，社会に貢献できる生徒 ・神石高原中学校生徒の心が実践できる生徒

評価計画								自己評価				学校関係者評価			
	中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成の方策 （具体的な取組内容）	評価項目・指標	目標値	時期	達成値	評価	達成状況	改善方策	評価 イ	評価 ロ	評価 ハ	コメント
確かな学力	主体的な学習を実現し，学力の向上を図る	生徒の主体的な学習を促す授業を展開し，学力向上を図る	1	学び合いの形態を取り入れた課題発見・解決学習を全教科で行う（年一回以上は各教科で校内研究授業を実施する）	標準学力テストにおける全国平均との経年比較 （2・3年生分の１０教科の経年変化平均値）	3ポイント以上	中間	65.7%	C	3年生４月実施の全国学力と２年生時２月実施の標準学力の全国平均を比較すると，国語-1.6（+8.8→+7.2）数学+6.4（-9.2→-2.8）英語+1.1（-1.1→±０） ※-1.6+6.4+1.1=5.9　5.9÷3=1.97 ※1.97÷3X100≒65.7	個のつまずきを分析し，ぐんぐんtimeや学び合いtimeの充実を図る。小テストや定期テストの内容改善を交流する。	○			学習に対する意欲は向上していることと，学力テストの結果があまりにも乖離しており，先生方も戸惑いがあると思います。生徒の学ぶ意欲を高めることにより結果として教科学力が向上するというスパイラルを構築するために，校種間の連携がさらに必要だと思いました。
							最終	10.0%	D	同室集団の標準学力における全国平均との経年変化平均値は,-3.55ポイント。目標とする3ポイント以上の向上は10教科中1教科であった。	長文を粘り強く正しく読み取れる力，基礎的知識基本的技能の習得などの課題に加えてあきらめずにやりきる指導を全体で行う。				
		多様な機会を設定・推奨し，自己決定させることで生徒のチャレンジ精神を養う		各種検定試験，作文コンクール，海外研修等の受験推奨を継続的・計画的に行うことで，生徒の意欲を喚起する	コンクールや各種検定（英検・数検・漢検等）にチャレンジした生徒の割合 （全員提出課題は除く）	80%以上	中間	62.5%	C	漢検・数検・英検のいずれかの検定を受験した生徒数43/86人（50%）。昨年度のこの時期38/86人（44%），海外語学研修に4人応募した。 ※50÷80X100=62.5	昨年度よりも受検者が増えている。各授業・全校朝会等でのさらなる呼びかけと学習意欲の喚起を進める。	○			チャレンジすることへの意欲が向上しており好感が持てる。主体的な取り組みがこういう形に表れていると思われる。 検定受検率が指標となり得るようにも思います。この項目については，目標設定・改善方策・評価とも適正であり，次年度においても粘り強く周知・支援をお願いします。
							最終	70.0%	C	漢検・数検・英検のいずれかの検定を受験した生徒数48/86人（56%） ※56÷80X100=70	生徒の意欲喚起のために，全体への周知とともに，個に応じた支援の充実を図る。				
豊かな心	社会に貢献できる生徒を育成する	地域に貢献できる生徒を育成する	2	地域での学びの場を設定するとともに，地域学習を取り入れる。また，生徒会の呼びかけによる地域行事へのボランティアでの参加を促す	地域のために何かをしたいと思う生徒の割合 （生徒アンケート）	80%以上	中間	92.6%	B	生徒アンケート項目「地域のために何かをしたいと思う」生徒の肯定的割合 74.1% ※74.1÷80X100≒92.6	地域での学びの場を設定する。(地域学習) 社会の出来事へ関心を持たせる取組を進める。（新聞発表）	○			非常に意識が高いことが伺えます。地域をテーマとした課題発見・解決学習をどのように深化していけるかが重要だと思います。年度により生徒が変わるので毎年同じ内容をすべての生徒に経験させることが必要な面もあり、限られた時間の中でのバランスが難しいと思いました。
							最終	90.4%	B	生徒アンケート項目「地域のために何かをしたいと思う」生徒の肯定的割合 72.3%　※72.3÷80X100≒90.4%	油木高校学習成果発表会へ2年生が参加し，高校生の取り組みから自分にできそうなことを考えた。このようなきっかけづくりを検討・実施していく。				
		他者を大切にする心を育む		各学期でコミュニケーションスキルトレーニングを行う	他者との関わりを大切にしたいと思う生徒の割合（生徒アンケート）	90%以上	中間	102.9%	A	生徒アンケート項目「授業では，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり，広げたりしています」生徒の肯定的割合92.6%　※92.6÷90×100=102.9	各授業での学び合いの中で課題解決学習の実施。夕会でのスピーチや書写，面接練習を継続する。	○			学び合い、教え合いの姿勢が確立し、ごく自然にできていることが素晴らしいと思います。引き続き協働的な学習のあり方を確立し、教科学力の向上に繋げていただければと思いました。授業を参観時、それぞれの意見を言い合い、また友達の意見を聞くという取り組みを見させていただきました。
							最終	100.4%	A	生徒アンケート項目「授業では，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり，広げたりしています」生徒の肯定的割合90.4%　※90.4÷90×100=100.4%	学んだことを発表したり，実際の場面に応用するような学習活動を仕組むことで関わり合う場面をつくる。				
健やかな体	しなやかでつよい心と体を育成する	心と体の成長を促す健康教育を推進する	3	睡眠の重要性を中心にした健康教育を推進する	学習に対する集中度や生活全般に対する意欲が向上した生徒の割合 （事前・事後の生徒アンケート変化の平均）	１０ポイント以上	中間	70.0%	C	睡眠不足を感じている生徒が 取組前後で7ポイント減少した。 ※7÷10X100=70	新たな取り組みを通して，生徒が自身の身体や健康について興味･関心を持つようにする。	○			新たな取り組みを試みることに一定の評価ができます。体力低下、3年生の給食の残し方は、学力の低下との相関関係があるのではと思います。本校生徒の体力が著しく低く、学校、保護者、町教委と協議を重ね抜本的な対策を講じないと将来大変なことになりそうです。
							最終	70.0%	C	らんらんタイムやすっから缶の取り組みを行い，健康への意識が高まった。（肯定８３%）	学校での取り組みを通して，健康への意識や家庭での生活について考えさせていく。				
働き方	超過勤務に対する意識改革を図る	定時退校日の設定と時間厳守の完全実施を実現する	4	スクラップのための協議を行い，優先順位の整理を進める	業務改善により，時間外勤務時間が月に45時間未満 （年間平均）	100%	中間	40.0%	D	教職員15名中、10月末現在での平均で6名が45時間未満を達成。 ※6÷15X100=40	業務過多職員の業務量を軽減する。時間意識が向上するよう声かけと定時退校日の完全実施を続ける。	○			業務改善への取り組みの変換時期であるため,この結果は致し方ないと思われます。行政指導と現場の乖離をどう埋めていくのか、悩ましいところであります。業務の精選に限界がある中で、さらなる働き方改革を進めるためには、地域や保護者の理解が鍵となるように思いました。
							最終	46.7%	D	教職員15名中、11月～2月末現在での平均で11名が45時間未満を達成。※11÷１５X100=73.3% 年間平均で7名が達成。※7÷15=46.7%	特に繁忙期の業務改善について、業務の要不要を考慮して遂行する。生徒指導対応・保護者連携等についても時間の制約がある中で進めていくようにする。				

【自己評価　評価基準】
A：１００%≦（目標達成）
B：８０%≦（ほぼ達成）＜１００%
C：６０%≦（もう少し）＜８０%　　D：（できていない）＜６０%

【学校関係者評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。